

ノックダウンすると INF- γ による MUC5AC 発現抑制効果は減弱した。さらに我々が Poly I: C により発現抑制することを見出した MAP キナーゼ経路を負に抑制する DUSP6 の発現を、INF- γ が増強することが分かった。以上の結果より、INF- γ が直接気道上皮細胞に作用してムチン産生を抑制すること、またその分子基盤として INF- γ による MAP キナーゼ経路の調節が関与している可能性が明らかとなった。現在、DUSP6 以外の分子の可能性の有無を検討しており、本大会ではその結果も合わせて報告したい。

14. 病院と地域看護職者間による ALS デスカンファレンスで見出された地域連携課題

大谷 忠広,¹ 牛久保美津子,² 富田千恵子¹
猪熊 綾子,¹ 中村 聡洋,¹ 池田 将樹³
牛込久美子,⁴ 田代美智子,⁵ 小林 直樹⁶
大槻 雪枝,⁷ 阿久沢とも子,⁷ 中村伊津江⁷
小川美由紀⁷

- (1 群馬大医・附属病院・看護部)
- (2 群馬大院・保・看護学)
- (3 群馬大医・附属病院・神経内科)
- (4 群馬県保健予防課)
- (5 前橋市保健所)
- (6 訪問看護ステーションホームナース)
- (7 群馬県看護協会訪問看護ステーション)

【研究目的】 筋萎縮性側索硬化症 (ALS) 患者 1 例の死亡にいたるまでの療養生活支援を振り返る「病院と地域看護職者間によるデスカンファレンス」を実施した。デスカンファレンスは、病院看護職 (病棟と患者支援センター)、保健所保健師、訪問看護師 (2 事業所)、ケアマネジャー、訪問理学療法士、大学教員らが一同に会し、約 3 時間、各職種による支援経過の報告と意見交換を行った。本報告は、デスカンファレンスにおける情報をもとに、今後の ALS 患者の地域支援・連携上の課題を見出すことを目的とした。**【方法】** 情報源はカンファレンス資料や各関係者の発言や意見交換の内容、終了後の意見や感想とした。それらを研究者間で討議し、地域連携課題を質的分析・抽出した。症例は、言語障害で発症し 7 年 6 ヶ月間の療養生活ののちに病院に緊急搬送され死亡した 60 歳台の女性。本人の行動力もあり、訪問看護事業所は 2 か所、診療所医師は 3 か所など支援者は多機関に及んだ。入院歴は 5 回 (3 病院が対応) であった。倫理的配慮は全参加者に研究発表の趣旨や内容を口頭で説明し同意を得た。**【結果と考察】** 各支援者におけるうまく行った点や不全感・困難点が明らかとなった。本症例の「危機的場面」は、①療養場所の変更時、②病状悪化等に

伴う夫への介護負担増強時、③肺炎の繰り返しで顕在化した終末期と考えられた。それらを統合し考えた結果、地域連携課題として、「家族介護負担の軽減」、家族関係の調整や終末期対応における「家族指導や家族ケア」、特に呼吸管理面での「病院と地域主治医間の連携」、「看取りのための体制整備」が見出された。**【結論】** 各々にとっては些細と思っていた情報が実は大切な情報であったことへの気づきがあった。切れ目のない看護の実現には、療養経過における危機的時期・場面における情報共有と対処のための迅速かつこまめな連絡対応ができるよう、関係者の相互尊重の上での病院と地域との連携を強化する必要がある。

15. Development and Validation of an Assessment Scale for Continence Self-care (ACS)

Yoko Uchida,¹ Manami Kamiyama¹ and Ryo Ando²

- (1 Gunma University Graduate School of Health Sciences)
- (2 Department of Master Course, Gunma University Graduate School of Health Sciences)

【OBJECTIVE】 To develop and validate an Assessment scale for Continence Self-care (ACS). **【METHODS】** **Setting and Sample:** The study took place on two lectures of continence self care at each site. Subjects were 409 residents participated in the lecture. **Measures:** The self-administered questionnaires were distributed to residents. Three instruments were used for measuring continence conditions: ACS (7 items), ICIQ-SF (International Consultation on Incontinence Questionnaire-Short Form) (4 items), IPSS (International Prostate Symptom Score) (7 items). **Statistical Analysis:** Construct validity was assessed by factor analysis of ACS (7 items), while concurrent validity was assessed by interrelated analysis ACS between ACS with ICIQ-SF and IPSS. All statistical analyses were performed using SPSS version 15.0. The level of significance was set at 0.05 in all analyses. **【RESULTS】** ACS was composed two factors. Almost ACS's items had a correlation with the ICIQ-SF and IPSS ($p < 0.05$). The Cronbach's α coefficient (internal consistency) for the ACS was 0.547. **【DISCUSSION】** This study proved that ACS has sufficient (concurrent) validity. Improvement is necessary by increasing the number of ACS items due to lower confidence level.